

- ② 移動をお願いする避難者が再配置を理解できる場づくりができたか。
- ③ 再配置のアセスメントと計画を立案し、実施計画を立てることができたか。
- ④ 災害要援護者の再配置を避難者の同意を得て実施することができたか。
- ⑤ 再配置後に災害要援護者の生活をシミュレーションして実施結果を評価することができたか。

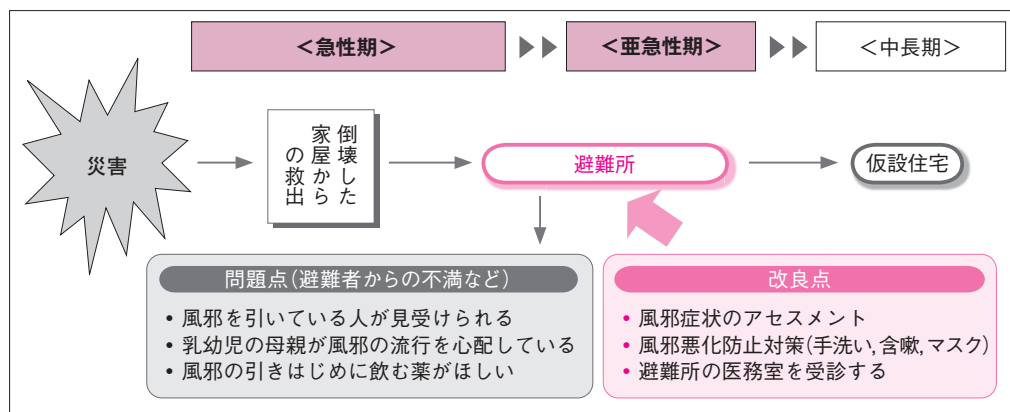
7 練習問題

- ① 避難所に人工骨頭置換術を受けた高齢者が入ってきました。移動や共有スペースの利用の視点から、避難所の再配置計画を考えてみましょう。
- ② 避難者たちは避難所にどのような共用のスペースを必要とするかについて、自分の学校の体育館を避難所と想定して考えてみましょう。

B 感染予防

1 医療救護活動の全体像から見たテーマの位置づけ (図IV-92)

感染症対策は2つの視点から進めます。1つめは感染している人を隔離して他の人との接触をできるだけ少なくすることです。感染症治療群への対応の視点では、悪化防止(治療の継続、手洗い、マスク、含嗽、睡眠など)を徹底して他の人への感染を予防します。2つめは感染症が発生しない環境を避難所に形成することです。避難所にいる人々への感染予防の啓発活動を行い、手洗いや含嗽用の水を用意し、マスクを配布します。避難所内に自治組織があれば本部を通じて衛生班と協力して進めるとよいでしょう。



図IV-92 医療救護活動の全体像から見た「感染予防」

2 演習の目標

- ① 避難者の健康管理を目的とした環境のアセスメントから、避難所の感染予防対策を提案できる。
- ② 風邪症状がある高齢者のケースを取り上げて、具体的な感染予防ケアを提供できる。

3 演習の準備

物 品

- ・看護師役：避難者健康状態管理用紙，体温計，血圧計，聴診器，ペンライト，舌圧子，マジック，模造紙，セロハンテープ。
- ・被災者役：使い捨てマスク，擦式消毒用アルコール，マットレス(あるいは座布団)。

役割分担

看護師役，高齢者 B さん役，B さんの息子の嫁役，観察者に分かれる。

演習場所

教室，体育館など多人数が集まれる場所。

場面設定

10月〇日に震度6の地震が起き、家屋が倒壊した家族はA学校体育館の避難所に集まっています。避難者は500人(内訳：高齢者100人，成人300人，中高生50人，学童25人，乳幼児25人)で、家族で生活スペースを確保して寝泊まりしています。11月に入って朝晩が冷え込み、風邪を引いている人が何人か見られます。Bさん(男性，86歳)が苦しそうに咳込んでいます。

4 演習のフローチャート(図IV-93)

- ① オリエンテーション(→『災害看護』p.135, 136, 138, 139を参照)(5分)
- ② 設定場面の解釈と役割分担(10分)
 - ・6人グループに分かれ，看護師役3人(うち1人がBさん役に話を聞き，その他の2人が相談役として感染予防ケア計画の立案にかかわる)，Bさん役1人，Bさんの息子の嫁役1人，観察者1人を決定する。
 - ・グループで各役割の被災状況，健康状態の設定を考える。
- ③ 演習(50分)
 - ・看護師役はBさんに声をかけ，コミュニケーションをはかる(10分)。

2●風邪悪化の防止

アセスメントの結果、口蓋咽頭部に炎症症状が見られるので含嗽が必要です。Bさんの周りにも幾人かの人が風邪症状を呈しているため、手洗いと含嗽、マスクの装着を提案し、指導しました。

現在は床から5cmの高さに寝ているため(図IV-94)、塵埃やダニ・カビなどに睡眠中にさらされている可能性があります。そこで睡眠中のマスク装着、起床時と食事の際の含嗽と手洗いをすすめました。



図IV-94 Bさんの寝床の状況

- ① この避難所では、5cmの高さのマットレスが各自に配布されたため、寝床は多少高くなった。しかし、床には多種多様な汚染物質があるため、含嗽やマスクをすると感染予防になる。医療従事者は床から20cm以上高い場所に清潔物品を置くことを奨励されている。
- ② 夜間のマスク着用は乾燥を防ぐ意味もある。

3●家族からの支援

2日後の訪問時、Bさんはマスクをしていました。「夜は少し楽に寝ることができるようになったよ」と言って、医務室で診てもらったら同じようなことを言われたと笑っていました。そして、起床時は、含嗽と手洗いを歯磨きもかねて洗面台まで行って実施していますが、足が弱っているので、その後の手洗いは、薬局で購入した擦式消毒用アルコールで行っているとのことでした(図IV-95)。看護師は、Bさんと家族に継続できる方法を工夫していて、とてもよい、素晴らしいことだと伝えました。



図IV-95 擦式消毒用アルコールを用いたBさんの感染予防

- ① 避難所の医務室でも同じことを指導されたことで、看護師とBさんとの信頼関係が深まった。
- ② 擦式消毒用アルコールは医療関係者やボランティアが腰に付けていた物で、手が汚れていない限り感染予防に効果があるので、上手に取り入れていくとよい。

留意点▶▶

- ◆ 災害要援護者の場合は、家族にもサポートを依頼し、継続して感染予防ができるように配慮する。

6 演習の評価

行動の振り返り

- ① (看護師の立場で) 指導を行う立場として何を感じましたか？
- ② (Bさんの立場で) 感染予防ケアを受ける立場としてどのようなことを感じましたか？
- ③ (Bさんの息子の嫁の立場で) 感染予防ケアの指導を受けても、足が不自由な義父が自由に実施できない状況を見てどのようなことを感じましたか？
- ④ (観察者の立場で) 演習を観察し、撮影していたときに何を感じましたか？

自己評価の視点

- ① 災害要援護者に必要な観察とアセスメントができる場づくりができたか。
- ② 災害要援護者の家族がケアの必要性を理解できる場づくりができたか。
- ③ 感染予防のアセスメントと計画を立案し、実施計画を立てることができたか。
- ④ 災害要援護者の同意を得てケアを実施することができたか。
- ⑤ 災害要援護者の生活をシミュレーションして実施結果を評価することができたか。

7 練習問題

- ① 避難所のライフラインの回復や開設時期に即した感染予防ケアについて、子ども向け、高齢者対象の指導を考えてみましょう。
- ② 仮設住宅における介護教室での、感染予防ケアの集団指導を考えてみましょう。